

# 自治会 第56号 あつぎ

## 目標

- ◎みんなの手で育てようあすの自治会を
- ◎地域づくりは市民の民主的・自発的な活動から
- ◎行政と協働で楽しく豊かな地域社会

発行 厚木市自治会連絡協議会  
編集 自治会連絡協議会広報部  
電話 046-225-2101



厚木市自治会連絡協議会  
佐藤会長

**「ごみ減量化・資源化新システムスタート」**  
厚木市自治会連絡協議会  
会長 佐藤 信雄

秋空高くまことにさわやかな季節となりました。皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日ごろ、当協議会の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

五月に自治会連絡協議会総会も終わり四ヶ月をすぎ、その間には七月に自治会長研修視察(水戸市)、九月には敬老事業も終了し運動会の季節となつて来ましたが、皆様身体に気をつけてご活躍ください。

さて、今年十月十九日からスタートするごみ減量化・資源化新システムについては、

役員が広報紙とともに「自治会加入のしおり」を配布し、加入促進を図っている。また市では、市民課による転入者へのしおりの配布や、建築指導課による建築確認時の施工主等へのPRなど、加入促進を図っているとのことであり、厚木市とあまり変わらない状況であった。

②ごみの減量対策及び資源回収方法について  
平成十八年度から可燃ごみ・不燃ごみの収集袋有料化、資源ごみ用袋は無料として回収している。また、市民運動による集団資源物回収運動を展開し、回収量に応じて十円/kgの報償金を交付している。さらにペットボトルの拠点回収、生ごみ処理機器の購入補助として電動式上限二万円、容器式三万円を交付している。資源回収率は十二・八%(厚木市の場合は一五・四%)

③自治会未加入者が自治会管理の集積所にごみを出している場合の対応について  
自治会員が集積所の維持管理をしており、加入促進を図っているが賛同をいただけないのが現状であり、厚木市と同じ悩みをもっている。

④自治会役員の後継者育成について  
地域の次代を担うリーダー

地球温暖化の防止など環境負荷を低減し、循環型社会を形成するために、資源回収品目の追加や、資源とごみの収集方法等の変更を盛り込んだものです。

玉川・森の里・相川の三地区で(モデル事業として)半年の間行つて来た結果は非常に良い数値が出て来ました。三地区の皆様有り難うございました。

この結果をふまえ資源対策課による、各地域への説明会もスライド・ハイプラの見本を作り(資源対策課の手作り)九月には説明会も終わり、いよいよスタートです。皆様方の協力により目標を達成しましょう。

目指せ！「ミッション35」！  
環境みどり部資源対策課の皆様ご苦労さまでした。

新システムが始まる十二地区の皆様方にはこれからいろいろな面でご苦労されると思いますが、モデル事業を行っていた三地区の皆様方から良いアドバイスがあると、今度は皆様一人一人が、「モデル事業」を始



僕はアースコマンド「エコレンジャー」です  
皆さん、よろしくお願ひします

めるんだと言う心構えで、新システムを迎えて下さい。私も微力ではありますが、「モデル事業」に参加します。目標に向かって皆様ご協力を宜しくお願い致します。

次に自治会の加入促進について、既に98%になった地域もございまして、なお一層の努力をして参りたいと思ひます。

明るく住みよいまちづくりを目指して、住民相互が協力し、連携し合つて、自分たちの住むまちを、より良くしていくためにも、皆様方のご努力により加入率を上げて行きたいと思ひますので、ご協力宜しくお願ひ致します。

最後になりましたが、当協議会の運営につきましては、下記の体制により執行して参りますので、皆様方のご協力をお願ひ申し上げます。

- 副会長 佐藤 信雄  
会長 倉田 久保  
事務 鈴木 木田  
会務 宮内 木田  
庶務 関野 田  
山本 橋田  
高橋 井  
山本 橋田  
桐生 橋田  
三橋 井  
伏見 村  
小瀬 村  
関根 井  
大貫 井  
藤岡 井  
森屋 井  
古木 井  
鈴木 井  
柏木 井
- 副会長 佐藤 信雄  
会長 倉田 久保  
事務 鈴木 木田  
会務 宮内 木田  
庶務 関野 田  
山本 橋田  
高橋 井  
山本 橋田  
桐生 橋田  
三橋 井  
伏見 村  
小瀬 村  
関根 井  
大貫 井  
藤岡 井  
森屋 井  
古木 井  
鈴木 井  
柏木 井

### 平成21・22年度役員紹介

## 住民自治組織に関する比較

	水戸市	厚木市
人口(人)	264,570	226,231
世帯数(世帯)	109,837	94,722
面積(Km <sup>2</sup> )	217.43	93.83
割合(宅地%)	20.0	35.5
割合(その他%)	80.0	64.5
自治会数	1,224	220
自治会会員数(最大)	768	2,091
自治会会員数(最小)	3	26
加入率(%)	70.0	70.4
地区数	31	15

茨城県立青少年会館での意見交換会は、大久保副会長の挨拶、水戸市住みよいまちづくり推進協議会会長の挨拶で始まり、活発な意見交換に入りました。

その主な内容の概要を報告させていただきます。

①自治会未加入者への加入促進の取り組みについて  
未加入世帯に自治会

自治会長の研修視察が七月七日から八日の二日間にわたり、「住民自治の確立と地域福祉の増進及び自治会組織・自主防災隊の充実・発展の高揚に寄与すること」を目的に百二十九名の参加により実施されました。

七日早朝より文化会館に集合し、出発にあたり佐藤信雄自治連会長挨拶の後、小林市長にお見送りをいただき、バス三台に分乗し今回の研修目的地である水戸市に向かいました。



水戸市は、明治二十二年四月一日全国で最初に市制が施行された三十一市のうちのひとつとして水戸市が誕生した。水戸黄門で有名な伝統ある県庁所在地の市であります。

自治会員が集積所の維持管理をしており、加入促進を図っているが賛同をいただけないのが現状であり、厚木市と同じ悩みをもっている。

④自治会役員の後継者育成について  
地域の次代を担うリーダー

⑤防災対策組織について  
小学校区単位で三十一の自主防災組織を結成し、市補助金として各地区五万円が交付され、年一回の訓練が実施されている。また、防災訓練の内容として、水害、地震が一般的であるが、水戸市の特徴として原子力事故を想定した内容も盛り込まれている。

⑥自治会と行政との関係、特に意見交換等の実施について  
小学校区単位に市長や市執行部との意見交換を「市民懇談会」として年一回実施している。

⑦協議会全体として、抱えている課題等について  
地区会(厚木市の場合、地区自治連)及びすみよいまちづくり推進協議会(厚木市の場合、市自治連)の役員任期は二年となっているが、改選年度が統一されていないため、実質毎年役員改選している状態であり、最大の悩みとなっている。この原因として平成十六年に水戸市と隣接町と合併し、町内会と自治会組織が

役員が広報紙とともに「自治会加入のしおり」を配布し、加入促進を図っている。また市では、市民課による転入者へのしおりの配布や、建築指導課による建築確認時の施工主等へのPRなど、加入促進を図っているとのことであり、厚木市とあまり変わらない状況であった。

②ごみの減量対策及び資源回収方法について  
平成十八年度から可燃ごみ・不燃ごみの収集袋有料化、資源ごみ用袋は無料として回収している。また、市民運動による集団資源物回収運動を展開し、回収量に応じて十円/kgの報償金を交付している。さらにペットボトルの拠点回収、生ごみ処理機器の購入補助として電動式上限二万円、容器式三万円を交付している。資源回収率は十二・八%(厚木市の場合は一五・四%)

③自治会未加入者が自治会管理の集積所にごみを出している場合の対応について  
自治会員が集積所の維持管理をしており、加入促進を図っているが賛同をいただけないのが現状であり、厚木市と同じ悩みをもっている。

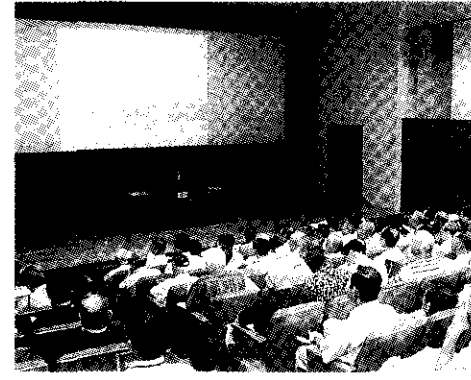
④自治会役員の後継者育成について  
地域の次代を担うリーダー

育成するため、連続講座の「地域リーダー研修会」の開催や、「永年勤続ほう賞」「功績賞」「善行賞」などの表彰式を年一回実施しているが、役員の手が足りないのが現状である。

⑤防災対策組織について  
小学校区単位で三十一の自主防災組織を結成し、市補助金として各地区五万円が交付され、年一回の訓練が実施されている。また、防災訓練の内容として、水害、地震が一般的であるが、水戸市の特徴として原子力事故を想定した内容も盛り込まれている。

⑥自治会と行政との関係、特に意見交換等の実施について  
小学校区単位に市長や市執行部との意見交換を「市民懇談会」として年一回実施している。

⑦協議会全体として、抱えている課題等について  
地区会(厚木市の場合、地区自治連)及びすみよいまちづくり推進協議会(厚木市の場合、市自治連)の役員任期は二年となっているが、改選年度が統一されていないため、実質毎年役員改選している状態であり、最大の悩みとなっている。この原因として平成十六年に水戸市と隣接町と合併し、町内会と自治会組織が



まだ統一されていない状況と、感想を持った次第であります。

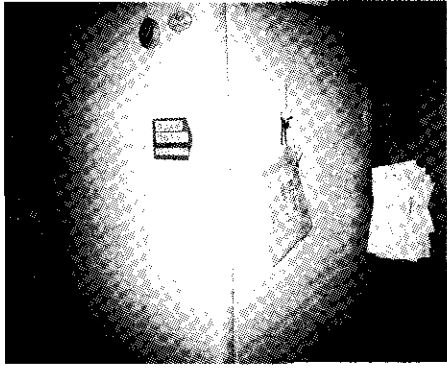
最後にりましたが、この研修視察にあたり、小林市長をはじめ、関係職員の皆様は大変お世話になりました。無事この研修が終了できましたことを心よりお礼申し上げます。

以上、倉田副会長の閉会の挨拶により活発な意見交換は終了しました。総じて当厚木市の自治会と大きな違いは無く、共通の悩みと問題点を持つていることが分かりました。対応していただいた水戸市すみよいまちづくり推進協議会の正副会長さん等の、熱意が伝わり、多種多様な問題を抱えていても自治会に対する熱意と積極的に取り組む姿勢があれば、「健全な自治会運営に道が開けるのではないかと、感想を持った次第であります。

### 高齢者に優しい 自治会をめざして

厚木南区泉町自治会  
会長 深井 毅

本厚木駅を抱える当自治会は、活気あるまちの反面大部分を住宅地で占め、環境浄化も求められる地域です。高齢者に優しい町として「救急医療情報キット」事業(全国で七箇所実施)の推進と二町をきれいにする会を両輪として、高齢者等の住みよい町をめざしていきます。



冷感庫に付けた  
救急医療情報キット

救急医療情報キット事業は、セーフコミュニティの環境として高齢者や障害者を対象に、持病や掛かりつけの医者・体質・診察券の写し等救急医療シートに書き、冷蔵庫

の側面に設置し万一の救急医療時、厚木消防署の協力を得て救急隊員に医療情報を提供するシステムです。現在、自治会で事業展開をしています。町をきれいにする会は、咲案内人として公園・歩道に花を植え町内美化を推進し、地域の人が爽やかに生活できる環境としています。なお、定例美化清掃を通じ不審者の確認、タバコの吸殻・道路清掃等と防犯巡回も兼ねみんなで協働し環境の良い泉町をめざして活動しています。

~~~~~

### 「自分たちで守る」 青パトを大いに活用する

依知北地区小平自治会  
会長 有 水 豊 洋

厚木市内の刑法犯認知件数は、平成十三年をピークに減少傾向が続いてきましたが、平成二十年は再び増加傾向に転じています。その中で依知北地区は市内でもっとも多い九十二件の増加という状況にあります。

このような中、依知北地区安心安全なまち会議では地区内十三自治会の民間車両一台ずつに青色回転灯を装備するこ



パトロール終りました  
異状ありません

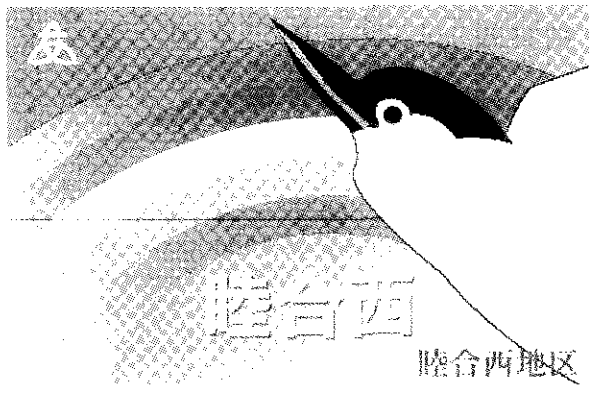
とになりました。そして毎月第一土曜日を「依知北防犯の日」と定め、地域一斉の自主防犯活動が始まったところだそうです。そうした中で、小平自治会は山際、猿ヶ島防犯モデル地区の一員として指定され、防犯対策に取り組み始めました。取り組みの中で大切にしていることは「自分たちで守ること」。この意識を高めること、青パトを大いに活用すること、自治会全員が都合のつく日に一度はパトロールに参加できるように工夫し防犯意識を高めながら、『自分たちのまちは、自分たちで守る』をめざします。

### 新たな睦合西地区

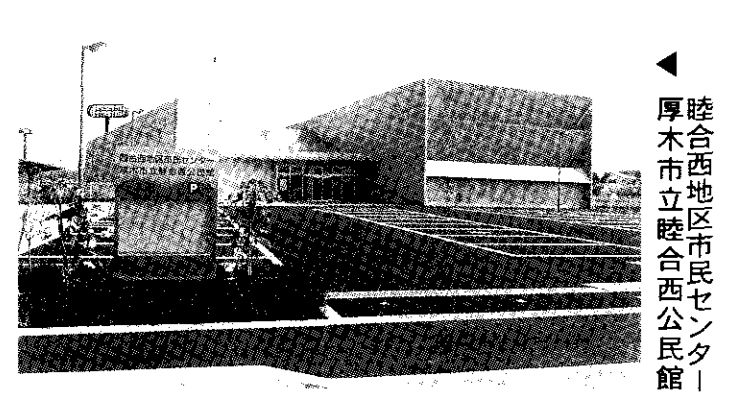
睦合西地区自治会連絡協議会  
会長 小 泉 省

平成二十一年四月、及川地区と林地区の八自治会、人口約一万人で構成する睦合西地区自治会連絡協議会が誕生しました。

ここで、睦合西の象徴であります地区旗を紹介いたします。



写真の睦合西地区は、虹と川と鳥をモチーフにし、及川地区住民と林地区住民との深い友情と強い絆を虹の架け橋でつなぎ、両地区を流れる荻野川と小鮎川の多く生息する



睦合西地区市民センター  
厚木市立睦合西公民館

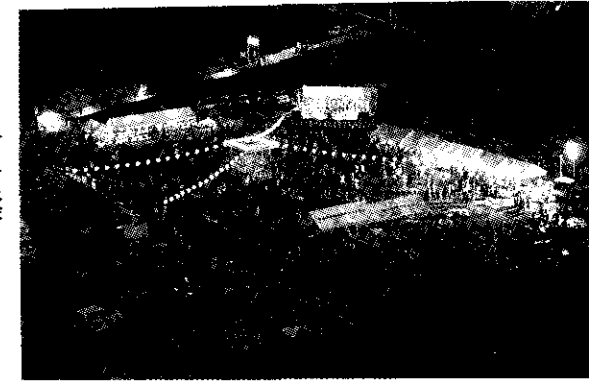
野鳥が大空に舞い上がるころをイメージしており、睦合西地区の未来にわたる飛躍と発展を願ったデザインとなっております。このデザインは、林中学校美術部二年生の佐々木理乃さんが描いたものを採用させていただきました。当協議会は発足して半年ですが、「自らの手で明るく元気な住みよいまちづくり」を目標に本年四月に完成した睦合西地区市民センター(公民館)を拠点に防犯や交通安全、環境問題などの諸活動を地域の皆様のご理解とご協力を得ながら進めていきたいと思っております。

### 幼い子ども達の ふるさとづくりをめざして

荻野地区みはる野自治会  
会長 小 本 寛 司

みはる野は、ここ数年急速に居住者が増加し、平成二十一年八月一日現在、世帯数は千八百二十二世帯人口は三千六百二十六人です。その年齢構成は三〇代が中心で、ご夫婦共稼ぎが多く、全世帯の70%以上を占めています。そのうち、自治会加入は九百五十二世帯です。

みはる野自治会の主な活動に、子ども達の夏休みにあわせ開催される「みはる野夏祭り」があります。住民全員参



夏祭り

加によるふれあいをもとに、約半年掛け、住民手作りの模擬店、各団体・学校等によるアトラクション、子ども達の御神輿など盛りだくさんに開催され、昨年は約三千五百人の参加を得ました。また、今年度は防犯モデル地区の指定を受け、月に一回防犯防災部員による巡回パトロールを実施しています。今後とも会員皆様の協力のもと、様々な行事を通じて絆を持ち、若い力とチャレンジで住みよい環境づくり、故郷みはる野のまちづくりを努めて行きたいと思えます。

~~~~~

### 宮の里地区自治会活動 について

小鮎地区宮の里第一自治会  
会長 佐々木 厚

宮の里地区の自治会活動について紹介したいと思います。宮の里地区には、宮の里中央宮の里第一住宅、宮の里二丁目、宮の里東の四自治会があります。

四自治会全体で行う活動及び各自治会で行う活動がありますが、ここでは四自治会合同で行う活動を紹介したいと思います。

思います。新年度各単位自治会の新体制が出来たところで、四自治会の役員が集まり一年間の活動の確認と役割分担を決めます。それぞれの活動の主管自治会は基本的には行事毎に各自治会持ち回りとしています。合同で行う主な活動は、春季健康祭りへの参加(五月)、宮の里納涼盆踊り実施(八月)、総合防災訓練実施(九月)、地区運動会への参加(十月)、秋季健康祭りへの参加(十月)、ふれあいゲートボール大会への参加(十一月)及び移動交番(年三回)です。

又、宮の里全体で対応を必要とする問題は全体で協議し対応しています。

~~~~~

### 南毛利地区で36番目の 自治会が発足

南毛利地区みらい文化川本自治会  
会長 筒 井 英 哉

五月に加入世帯五百の新し自治会が発足しました。担当の地域は厚木市文化会館をはさむ南と西側です。会員の93%がマンションの住民で、会費は月二百円のスリムな自治会です。明るく楽しく、すぐやる、やる気集団の自治会です。住民との対話に心がけアンケートを三回実施し、対話集も開催しました。広報は毎月発行し、八月の納涼祭にはあつき中学校の女子生徒二十名がボランティアで参加し、四百名余の子どもが来場しました。ウルトラマンの登場で子どもたちは大喜び。九月の文化講演会「毛利季光と北条時宗」には多数の歴史ファンが出席しました。自治会は防犯・防災問題を優先に取



総合防災訓練風景



納涼祭

